

アイランドシティ地区新設校整備に関する基本計画について

1 計画の位置付け

照葉北小学校については、令和4年度以降、過大規模（31学級以上）の状態が継続することが見込まれるため、「福岡市立小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針（平成21年3月策定）」に基づき分離新設を行うに当たり、新設小学校の施設整備に関して必要な事項を定めるものである。

また、照葉中学校についても将来的に過大規模校となり、その状態が継続することが想定されることから、今回新設する学校については、将来的な施設一体型小中連携校として整備する必要がある。

そのため、将来的な新設中学校の施設整備に関しても必要な事項を定めるものである。

本計画は、学校施設の設計や建設を行うに当たって、基本的な事項等を定め学校施設等の条件設定を行うものであり、今後、本計画に基づき基本設計を進めていく。

<照葉北小学校の令和元年度推計（各年5月1日基準日）※特別支援学級含む>

年 度	R 1 (実数)	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
学級数 (学級)	21	25	30	35	40	42	43
児童数 (人)	598	730	880	1,060	1,220	1,310	1,390

※アイランドシティの既分譲地における住宅供給見込みに基づく推計

2 敷地概要等

(1) 敷地概要

①所在地

福岡市東区香椎照葉6丁目28番21及び27番25

②敷地面積

小学校：約16,500平方メートル

中学校：約23,200平方メートル

③地域地区

ア 用途地域 : 第二種住居地域

イ 建ぺい率/容積率 : 60/300

ウ 防火地域 : なし

(2) 接道・周辺状況

①接道状況

ア 東側：約18m

イ 西側：約30m

ウ 北側：約35m

②周辺状況

- ア 東側：市道を挟んだ隣接地はグリーンベルト
- イ 南側：暫定駐車場と隣接
- ウ 西側：市道を挟んだ隣接地は開発中
- エ 北側：市道を挟んだ隣接地は開発中

(3) 位置図



3 建築条件

(1) 施設概要

校舎（地上4階以下とする）、講堂兼体育館、プール 等

(2) 施設規模

小学校

普通教室 26 教室及び必要諸室が配置可能な施設規模

※普通教室は 30 教室まで増設可能な計画とする。

中学校

普通教室 14 教室及び必要諸室が配置可能な施設規模

4 施設整備の基本的な考え方

(1) 配置計画等の考え方

①配置計画の基本的な考え方

ア 施設配置

校舎及び講堂兼体育館等は、本敷地北側に配置し、運動場等は本敷地南側に配置とする。

イ 施設一体型小中連携

小中の一体的な連携教育を実現するため、「施設一体型小中連携校」として設計する。

例. 小学校・中学校の円滑な交流を図るため、連絡通路を整備し、双方の校舎を一体化する等の検討など

②施設区分ごとの基本的な考え方

ア 校舎

児童・生徒や教職員との連携・交流の促進を図られるような校舎配置とし、必要な諸室を適切に配置するとともに、採光や通風の確保や、新型コロナウイルス等の感染症発生時に必要となる空間や可変性の確保にも配慮した設計とする。また、校舎及び諸室の配置は、将来の教室増設などに柔軟に対応できる計画とする。

歩行者と車両のアプローチは可能な限り安全かつ明確に区分するよう計画する。

a 車両のアプローチ 保護者，地域住民，納品業者，来客等を想定

b 徒歩等でのアプローチ 児童，教職員，保護者，地域住民，来客等を想定

イ 講堂兼体育館，プール設備

児童・生徒が利用する際に、利用しやすい適切な配置となるよう配慮するとともに、地震や水害等の災害発生時には地域の防災拠点としての重要な役割も担うことから、災害に強い施設を整備し、児童及び地域住民などの安全・安心を確保する。

ウ 運動場

基本的な運動場機能の確保に加え、遊具の配置や運動会におけるテント設置等を考慮したスペースも確保し、ゆとりある運動場とする。

エ 特別支援学級

特別支援学級の設置については、通常学級との交流及び共同学習を効果的に進めることが出来る配置とする。

オ 図書室

児童・生徒が立ち寄りやすく、しらべ学習など多様な教育に対応ができる計画とする。

カ 駐車スペース

来客や地域開放等に対応した駐車スペースの確保に配慮する。

施設構成については、参考資料 アイランドシティ地区新設中学校の施設構成(参考)を参照下さい。

③施設構成(案)

「福岡市小中学校施設整備指針」を参考として、施設整備の基本的な考え方を考慮した施設構成の案を次に示す。

なお、ここに示す施設構成は案であり、今後、基本設計等において詳細に検討することとする。

ア 小学校

施設区分		施設内容
校舎	普通教室	26 教室 (通常学級 24 教室, 特別支援学級 2 教室) (注 2)
	特別教室	理科室 2CR (注 3), 音楽室 2CR (注 3), 図工室 2CR (注 3), 相談室 0.5CR, 児童会室 0.5CR, 第 2 音楽室 2CR (注 3), 家庭科室 2CR (注 3), ランチルーム 2CR, 図書室 2CR, 留守家庭準備室 0.5CR, 多目的教室 1CR×6
	管理諸室	校長室 0.5CR, 職員室 2.5CR, 保健室 1.5CR, 事務室 0.5CR, 会議室 1CR, PTA 会議室 0.5CR, 用務員室(作業スペース含む) 1CR, 放送室 0.5CR, 印刷室 0.5CR, 職員用更衣室・休養室(男女各) 1CR, 職員用シャワー室(男女各) 0.5CR, 教具室 0.5CR/階, 職員用トイレ 0.5CR, 給食室 4.5CR (ドライ方式, 調理員控室含む), 配膳室 0.5CR/階
	通路等	廊下, 階段, エレベーター, 児童用トイレ各階 (注 4), 一般玄関 0.5CR, 昇降口 2CR
講堂兼体育館	床面積 約 930 m ² アリーナ(24m×29m), ステージ, 更衣室, 器具庫, トイレ	
プール	<中学校と共用できる仕様の検討> 床面積 約 560 m ² プール槽(25m×12.5m:7 コース), 更衣室, シャワー室, トイレ	
運動場	トラック (150m), 走路 (直線 60m+助走路 15m), 球技スペース (ソフトボール場) (注 5), 体育用具室, 砂場, 遊具 等	
屋外関係	通用門(正・副), 物品庫, 飼育小屋, 倉庫, 危険物倉庫, ゴミ置き場, 駐車スペース, 備蓄倉庫, マンホールトイレ 等	

(注 1) 1CRの基準は8m×8mとする。

(注 2) 将来的な児童数増加に備えて普通教室は最大 30 学級まで増設可能な設計とし、管理諸室(職員室, 給食室等)は拡張可能な設計とする。また、普通教室は児童数増加に伴う増築時に、既存校舎とのつながりや使いやすさに配慮した設計とする。

(注 3) 理科室, 音楽室, 図工室, 家庭科室は準備室を含む。

(注 4) 各階に多目的トイレを設置する。

(注 5) 球技スペースは、ソフトボール場の場合、両翼 70m 程度とする。

施設構成については、参考資料 アイランドシティ地区新設中学校の施設構成(参考)を参照下さい。

イ 中学校

施設区分		施設内容
校舎	普通教室	14 教室 (通常学級 12 教室, 特別支援学級 2 教室)
	特別教室	理科室 2CR (注 2), 音楽室 2CR (注 2), 美術室 2CR (注 2), 技術科室 3.5CR (注 2), 調理室 2CR (注 2), 被服室 2CR (注 2), 相談室 0.5CR, 心の教室 0.5CR, 適応指導教室 0.5CR, 生徒会室 0.5CR, 第 2 理科室 2CR (注 2), 図書室 2CR, 多目的教室 1CR× 3
	管理諸室	校長室 0.5CR, 職員室 2CR, 保健室 1.5CR, 事務室 0.5CR, 会議室 1CR, PTA 会議室 0.5CR, 放送室 0.5CR, 印刷室 0.5CR, 職員用更衣室・休養室 (男女各) 1CR, 職員用シャワー室(男女各)0.5CR, 教具室 0.5CR/階, 職員用トイレ 0.5CR, 給食受所 1CR (給食センター方式)
	通路等	廊下, 階段, エレベーター, 生徒用トイレ各階 (注 3), 一般玄関 0.5CR, 昇降口 1CR
講堂兼体育館		床面積 約 1,060 m ² アリーナ(26m×32m), ステージ, 更衣室, 器具庫, トイレ
武道場		床面積 約 350 m ² 柔道場, 剣道場, 更衣室, 防具室, トイレ
運動場		トラック (200m), 走路 (直線 100m+助走路 15m), 球技スペース (野球場) (注 4), テニスコート 2面, 体育用具室, クラブ室 等
屋外関係		通用門(正・副), 物品庫, 倉庫, 危険物倉庫, ゴミ置き場, 駐車スペース, 備蓄倉庫, マンホールトイレ 等

(注 1) 1CR の基準は 8m×8m とする。

(注 2) 理科室, 音楽室, 美術室, 技術科室, 調理室, 被服室は準備室を含む。

(注 3) 各階に多目的トイレを設置する。

(注 4) 球技スペースは, 野球場の場合, 両翼 90m 程度とする。

(2) 教育環境の充実に関する考え方

①小中連携教育の取組みに最も効果的な施設計画

「施設一体型小中連携校」として整備できるような施設を計画する。

②教育効果を高めるための施設づくり

ア 各普通教室にワークスペースを確保する仕様とするなど多様な学習形態にも対応できる施設を整備する。

イ ICTを活用した教育を推進するためのネットワーク環境を整備し、遠隔授業など新たな学習形態に柔軟に対応できる施設を整備する。

③児童・生徒等が使いやすく、“安全・安心”を感じられる施設づくり

ア 児童・生徒が使いやすく、ゆとりを感じることが出来る空間構成や児童・生徒や教職員の動線を考慮し、使い勝手が良く過ごしやすいゾーニング及び動線を計画する。

特に、各普通教室の近くに十分な手洗い流しを設置するなど、感染予防に重点を置いた整備とする。

イ バリアフリー等のユニバーサルデザインに配慮した、児童・生徒、教職員、保護者及び地域住民が円滑に使用できる施設を整備する。

ウ 気候の変化に対応し、児童・生徒が快適に過ごせる空調を整備する。

エ 児童・生徒が十分に体を動かせる、ゆとりある運動場を整備する。

④木材を活用した校舎整備

子どもたちが、やさしさや温もりを感じることが出来る空間づくりに配慮し、できる限り地域産木材を使用した内装(教室、体育館等の床、壁等)の木質化を図る。

⑤教育の質の向上のための教職員の職場環境への配慮

学校運営のあり方や教育現場の実情を踏まえた、教職員の負担軽減や職場環境向上に資する施設を整備する。

(3) 地域との連携に関する考え方

①周辺の豊かな自然環境や景観との調和が感じられる外観

市道を挟んで隣接するグリーンベルトとのつながりに配慮するなど、アイランドシティ・デザインガイドラインを踏まえた景観の形成を図る。

②子どもたちや地域住民の防災拠点を目指した災害時にも強い学校づくり

地域の避難所としての役割を持つ学校施設において、十分な安全性と防災機能を確保した施設を整備する。

(4) 環境配慮に関する考え方

①環境負荷の低減や自然との共生を考慮した「エコスクール」の整備推進

- ア 環境性能評価指標の評価項目等を踏まえた環境負荷低減を図る。
- イ 積極的な緑化，再生可能エネルギー活用や省エネ化を図る。

②騒音，日照等への配慮

隣接地への騒音や日照等、周辺環境に配慮した施設を計画する。

③将来を見据えた施設整備によるライフサイクルコストの低減

- ア 教育内容，教育方法等の変化や社会的変化に対応し，ニーズに応じた改修をしやすい施設を整備する。
- イ 学校施設の長寿命化を図るとともに，施設の維持管理（大規模改造工事，外壁改修工事，防水改良工事，設備機器更新等）が容易にでき，また，その費用をできる限り低減できる施設を整備する。
- ウ コンパクトな施設で初期費用の低減を図る。

5 事業スケジュール

